

「全消防本部への指令車寄

奈良県遊技業協同組合(以下奈良遊協)では、社会貢献活動の一環として、毎年消防局や消防本部に救急車や消防指令車を贈呈している。スタートして18年目を迎えた今年度は、奈良遊協設立40周年の記念すべき年でもあった。

● 奈良県遊技業協同組合
----- 組合員数 94人



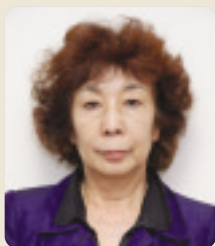
金田 元吉 理事長

この度、栄えある部門賞・災害救助賞を賜り、誠にありがとうございます。これは、社会貢献が社会を支える極めて重要な活動であるという、組合員全員の認識が実を結んだ結果だと思えます。今後とも、地域に根差した社会貢献に取り組んでいきたいと思えます。



災害救助賞

選考理由



社会貢献活動審査委員会 委員
脇田 直枝 氏

本来は行政が整備すべきところ、消防指令車、救急車を長年にわたって県下の消防組織に寄贈している、その着眼点が高い評価を受けました。地域によっては消防団員を女性に頼る所も多いと聞きます。超高齢化社会となる現代こそ、国民の安全確保や円滑な消防活動を行なうために、今まで以上に現場での適確な判断・指令が必要となっていくのではないのでしょうか。

奈良遊協40周年を記念し 県内すべての消防組織へ 消防指令車を贈呈

奈良県遊技業協同組合が、奈良県暴力団追放県民センター、中和広域消防組合等の4団体への寄付に加え、県内の消防局や消防本部に救急車や消防指令車の贈呈を始めたのは平成元年(1989年)のことである。

以来、毎年、県下の消防局、消防本部への寄贈を行っており、これまでの総寄贈台数は、この18年間で、救急車43台、消防指令車40台にものぼっている(寄付金の総額は3億5,009万円)。

平成14年(2002年)には、こうした長年にわたる社会貢献活動の実績が認められ、法務大臣をはじめ、前述の4団体より感謝状が授与された。地域や関係機関・団体に根付

いた活動として定着した本事業は、社会的に高い評価を得るまでに成長したといえる。

組合設立40周年を迎えた平成18年(2006年)は、県下に13ある消防局、消防本部すべてに消防指令車を寄贈した。

消防指令車は、火災現場や災害現場での指揮に利用される。また、救急現場への医師の搬送に加え、近年の異常気象等によって引き起こされる水害等の災害時においては、危険箇所の調査等にも利用されている。

災害現場では、安全の確保及び円滑・効果的な警防活動を遂行するためにも、責任者が、高度な情報収集・判断のもと、組織的で厳格な指揮を行うことが必要である。消防指令車の役割は、消防力の強化を図りながら、消防活動における組織的な安全管理を徹底させていくためにも、年々大きな



法務大臣より授与された感謝状



奈良市消防局及び12消防本部からの感謝状



(財)奈良県防犯協会に協力を寄贈(上)。併せて消防指令車を寄贈(下)

ものとなってきており、危機管理の側面からも非常に貢献度の高い事業として認識されている。

平成18年(2006年)5月に行われた贈呈式では、国会議員や県議、行政関係者ら大勢の来賓が祝福に駆けつけるなか、奈良市消防局をはじめ中和広域消防組合消防本部等、県内すべての消防組織へ消防指令車が贈呈された。

TOPICS

平成19年(2007年)5月の贈呈式では、消防救急課に消防指令車4台、日本赤十字社・奈良県赤十字血液センターに血液運搬車1台が寄贈された。



消防指令車4台と血液運搬車1台を寄贈

消防救急体制の充実・強化へのご理解に深く感謝します



奈良市消防局
消防局長
猪岡 秀夫 氏

奈良遊協様には、昭和41年(1966年)の設立以来、地域社会との相互理解を深める活動をはじめ、県政の推進に格別のご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

市民の安心・安全を維持向上させていくためには、防災危機管理体制を構築し、消防体制の充実高度化を図りながら、行政と住民が一体となって地域の消防防災力を強化していく必要があります。このため、管轄区域で災害が発生又は発生のおそれがあるときに実施する災害の防除、警戒、鎮圧又は被害の拡大を防止する警防活動、消防部

隊の指揮、運用、災害調査及び災害広報等の実践では、指揮官らが指令車にて現場へ急行し迅速・的確な判断等を行うため、指令車の適切な運用が必要とされます。

近年、各地で発生する地震・台風等の様々な自然災害や大規模化する災害に対し、県民の消防に寄せられる期待も益々大きく求められているなか、消防行政に対する特段のご配慮から県下の13消防本部全本部に対し、指令車のご寄贈をいただき、深く感謝をしています。